

# カナエ ナガサワ(鼎 長沢)

## ワイン製造者(1852-1934)

ファウンテングローブのワイン製造者、鹿児島県の長沢鼎サムライの人生  
カリフォルニア州サンタローザ

### 1852年2月20日 誕生

磯長彦輔(長沢鼎に名前を変更)は、日本の鹿児島、薩摩で生まれ育った。侍の息子であった彼は、剣術を10歳で始め13歳の頃には立派な武士だった。彼は、驚異的な記憶力を持つ優秀な学生であった。

### 1865年2月13日 藩命 イギリス行き

日本が開国をしたときに、西洋知識が不可欠になると見越していた薩摩藩主は、西洋文化と技術を研究するため彦輔を含む15人をイギリスに行くよう命じた。

### 1865年2月15日 船を待つ

留学生達は、渡英する船を待つ為、羽島村に目立たぬよう入った。海外渡航は幕府の禁ずるところの国禁にあたるため彼ら全員が変名を使い、船が来るまでの二ヶ月間を不安の中待ちわびた。

### 1865年4月17日 航海

船が到着し、彼らの65日間の航海が始まった。すべての手配は、長崎で成功した商人スコットランド人トーマス・ベリー・グラバーによって行われた。

### 1865年6月21日 到着

早朝、彼らの船がサウサンプトンに到着。午後には彼らは列車でロンドンに行き、素晴らしい光景に驚いた。

### 1865年8月19日 スコットランドへ行く

13歳の長沢は、他の学生と一緒に大学に入るには余りにも若かった。彼は、トーマスグラバーの両親が住むスコットランドのアバディーンに向かった。彼は中等学校に入学し、成績トップの優等生であったことが記録として残っている。

### 1867年 夏 留学生資金減少

幕府打倒の夏、薩摩藩は軍備費用を増加した。次第に藩からの留学生資金は減少し、彼らの経済状況は苦しくなっていた。そのため 留学生のうち6人は、鹿児島に戻るようになった。

### 1867年8月 トーマス・レイク・ハリス

留学生達は、米国の新生社カルト集団のリーダー、トーマス・レイク・ハリスに会った。ハリスは、ニューヨークのコロニーにおける労働力と引き換えに教育を継続提供することを約束した。長沢と彼の仲間の留学生達は受け入れられ、ハリスとともに大西洋を渡った。

## 1867年10月14日 明治維新

明治維新秘密命令は幕府を転覆するために薩摩藩と長州藩に託された。そして、明治維新が起こった。明治天皇は1868年に即位し、死亡する1912年まで在位した。

## 1867年 - 1875年 ニューヨーク州 ブロクトン

留学生達はハリスのニューヨーク州 ブロクトンにある「新生兄弟社」コロニーに入った。若い長沢にとって、ブドウ園は学び舎であり、専門家からブドウ栽培を学んだ。1868年に愛国的な理由で長沢以外は、帰国した。

## 1875年7月 ファンテングローブ

ハリスと長沢と他3人は、新天地を求めてサンタローザに到着した。サンタローザの北400エーカーを1エーカー\$50で購入した。そして、すぐにファウンテングローブ農園の建設工事は始まった。後に、より多くの作付面積が追加されました。

## 1878年 植付け

植栽が完了した。ワイン用ブドウは375エーカー、テーブルブドウは25エーカーの敷地に植えつけられた。牛、馬、豚のために50エーカーの牧草地があった。175エーカーいっぱい干草と穀物、そして、オリーブや果物の木が200本植えられた。

## 1882年 ファンテングローブ ワイナリー

60万ガロンの容量を持つ大規模な石造りのファウンテングローブワイナリーが完成した。それは、10年後に焼失したが、半年で再建された。

## 1890年 長沢が責任者となる

ハリスはファンテングローブを長沢に任せてニューヨークに去った。長沢は牧場とワイナリーの責任者となった。彼は、ブドウ栽培に対して驚異的な知識があり、優秀なブドウ酒商人であった。ファンテングローブは彼の指導力の元、カリフォルニアの10大ワイナリーのひとつとなった。ワインのほとんどは、国際的な流通のためにニューヨークに出荷された。英国に輸入された最初のカリフォルニアワインは、ファウンテングローブからのものであった。

## 1896年 - 1927年 親戚が参加

未婚の長沢を親族が手伝った。1896年に、彼の甥、伊地知共喜は、ファウンテングローブに来た。共喜は、1917年に梅田ヒロと結婚した。1919年に彼らの息子幸介が生まれ、1927年には、娘エミーが誕生した。他の2人の甥は、1902年に佐々木英吉そして、1916年には磯長紀一が参加した。

移民先駆者の長沢は、出入国管理運動にサンフランシスコ総領事館と協力。多くの人はサクラメントバレーに向かったが、何人かの人たちはファウンテングローブで雇用された。1890年から1910年までに、カリフォルニアの日系人口は1,000〜40,000人以上に増加した。半数以上が農民であった。1920年には日本人が、カリフォルニア州のすべての農地の8分の1を所有または借地し、35%のブドウを収穫していた。長沢は、最も著名な日本人の栽培者とワインメーカーだった。

## 1899 年ラウンドバーン

ファンテングローブには、多くの建物やワイナリー跡、60 頭の馬を収容するために造られたラウンドバーンが廃墟として残っている。

## 1897 年・1910 年・1917 年・1923 年鹿児島に帰国

1897 年・1910 年・1917 年・1923 年の 4 回、長沢は鹿児島に帰国した。彼は、カリフォルニアの「ブドウ王」として、もてはやされた。彼は、サムライ(日本エリート戦士)と呼ばれており、サンタローザでは、男爵・プリンスのような貴族に誤解されていた。

## 1900 年 ファンテングローブ 売却

ハリスはファウンテングローブの所有地をコロニーの何人かの主力メンバーに売却する準備をした。ファンテングローブ農園とワイナリーは長沢と他 4 人のメンバーに 4 万ドルで販売された。そして、トーマス・レイク・ハリスは 1906 年に死亡した。

## 1908 年 ネアブラムシ

ファンテングローブのブドウ畑がネアブラムシに侵され、UC実験所からの指示で植え替えを行った。ブドウが成熟するまでの間は、ブドウを購入し、ワイン造りは続けられた。1911 年には、400 エーカーが再び収穫された。

## 1915 年パナマ 太平洋国際博覧会の審査員に選ばれる

長沢は、日本のコミッショナー総長賞の 1915 年パナマ・パシフィック万国博覧会の出品物審査員を務めるように頼まれた。ワインの専門知識に優れていたこと、日本人としての産業能力と誠実さがアメリカ人に良い印象を与えたことが審査員に選ばれた理由であった。

## 1920 年 1 月 禁酒法

1920 年 1 月酔わせるための酒の製造、販売または輸送は、法律の第 18 条改正によって禁止された。長沢は、ブドウジュース、料理用シェリー酒、ポートワインを基材として、牛肉エキスの強壮剤を作り出した。そして、彼は所蔵する上質なワインで、世界中からの客をもてなした。

## 1907 年・1913 年・1923 年 排日移民法

法律は、外国人が土地を所有し、子孫に相続されることを禁止。長沢は法律制定前の移住者であった為、経済的に影響うけなかったが、後継者の伊地知幸介に、ファンテングローブを相続することができなかった。

## 1924 年 2 月 11 日 叙勲授章

長沢の仕事の功績が認められ、大正天皇による勲五等雙光旭日章を授与した。1928 年に、日本政府は昭和天皇による大礼記念章の記念メダルを彼に授与した。彼の死後に天皇から勲五等瑞宝章が授与された。

## 1933 年 禁酒法廃止

法律の第 18 条改正は廃止された。長沢は、ロサンゼルスに支社を設置し、彼の代理人が責任を持って、ファウンテングローブワインの流通を担当した。

### **1934年3月1日 長沢鼎死す**

動脈硬化で死亡した。前の晩は、彼の家族が集まり、彼はささやいた、「もうお別れの時が近くなったようだ。……死を美しく迎えたい……」彼はハリスを称讃し、教義を理解しようとしていたが、彼は日本人として先祖伝来の仏教・儒教・神道の広い哲学の概念が強かった。彼には、サムライとしての奥義と神智学が残っていた。彼の遺骨は、鹿児島島の家族の墓に置かれた。

### **1935年 - 1937年 ファウンテングローブ売却**

長沢が信頼できる弁護士ウォレス・ウォーに不動産を清算し、売却して、相続人の間で収益を分配するよう指示した。1935年サンタローザ商工会議所が85エーカー購入した。1936年12月に残りの長沢所有の土地1768エーカーすべてをエロル・マックホイルが購入した。1937年予想よりも早く、伊地知家の人々はサンタローザを離れることを余儀なくされた。彼らは、サンタローザの友人と過ごす生活を奪われた。

エステートの不動産販売の分布は118,050ドルとなった。様々な請求、弁護士費用、および葬儀の費用は66,160ドルとなった。ウォーに弁護士費用に加えて\$25,000を与えるよう遺言にあった。伊地知ファミリーは弁護士にこれ以上の報酬を払わないと主張したにもかかわらず、遺言検認裁判では、多額の追加料金の支払いをするよう判決が下った。残りは、\$3,500.12だけで、それを5つの相続人の間で分割した。

### **1979年ファウンテングローブの開発**

1,270エーカーは1,540万ドルで売却された。一部は、オフィスビルや住宅のために不動産開拓業者に販売された。長沢鼎の栄光を称えるために、教師・経営者・投資法人は、ラウンドバーンを改築し、日本風のカントリークラブを造った。

### **1983年 友好協会が結成**

長沢の業績を称え、彼が帰化した土地と文化的絆を深めるために、サンタローザ市民と鹿児島との間に友好協会を結成した。それと同時に、サンタローザ協会を鹿児島に設立した。パラダイスリッジワイナリーでは長沢鼎とファウンテングローブの歴史的な展示が、歴史の重要な部分を生かし維持していくことを目指している。

長沢の人生とファンテングローブ農園での歴史的情報は、1990年に発行された薩摩学生の伝記【若き薩摩の群像】門田明氏 著(鹿児島短期大学)とテリー・ジョーンズより収集した。

(鹿児島友好協会タイムライン提供)

長沢鼎展示 Paradise Ridge Winery 4545 Thomas Lake Harris Dr. Santa Rosa, CA 95403 (707) 528-9463